

# 青少年の非行・被害防止 全国強調月間

## 次代を担う子ども・若者を地域で見守り育てよう

夏季期間はこどもの活動時間や範囲が広がります。さまざまなトラブルや事件に巻き込まれ、犯罪の被害者や加害者にならないよう、子ども・若者を健全に育む環境づくりに支援とご協力をお願いします。

【相談窓口】  
江戸川少年センター  
☎(3651)8567

【事件性のある通報先】  
深川警察署  
☎(3641)0110  
城東警察署  
☎(3699)0110  
東京湾岸警察署  
☎(3570)0110  
区は東京都薬物乱用防止推進

# ご家庭で交通ルールの再確認を！

## 夏休み中も交通事故にあわないために

夏休みは子どもだけで出かける機会が増えます。子どもが当事者となる事故は、急な飛び出し、道路の横断中、朝や夕方方の時間帯に多く発生しています。また、小学校3年生以上では自転車事故も多くなっています。

**こどもの交通事故防止ポイント**

- 道路で遊ばない
- 道路に飛び出さない
- 信号を必ず守り、青信号でも左右の安全を確認して渡る
- 道路を横断するときは車が止まってから横断する
- トラックなどの大きい車は死角が多いので特に注意する
- 見通しの悪い交差点では、必ず一時停止をする
- 自転車に乗るときは、ヘルメットを被る
- お子さんに交通事故防止ポイントを繰り返し教えるとともに、お子さんと一緒に自宅周辺の危険箇所を確認しましょう。

☎(3647)4784  
FAX(3647)9287

# ひきこもり等(青少年相談)豊洲講座

ひきこもり等で悩む家族のための講座「家族の関わり方について」

ひきこもり等の当事者のご家族の方が、少しでも楽な気持ちで安心して生活できることを目指す講座です。講座終了後、個別相談も可能です。興味のある方はぜひご参加ください。

※次回は9月20日(金) 予定  
7月26日(金) 午後1時半～3時半 豊洲文化センター18階第7研修室(豊洲2-2-18)

7/26(金)

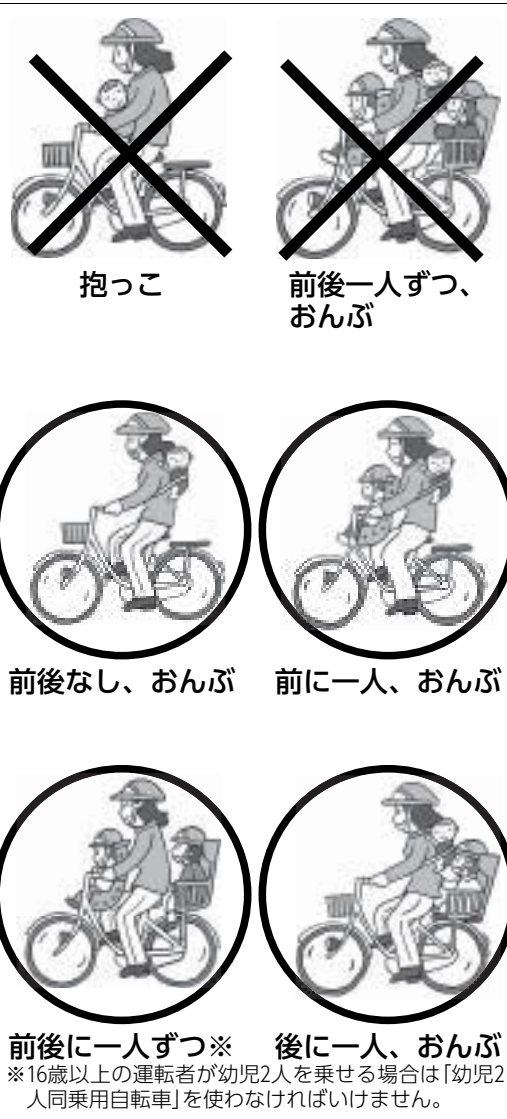
# 守るべき自転車ルール！

## 子どもを「抱っこ」したまま自転車に乗ることは道路交通法違反

子どもを抱っこしたまま自転車に乗ってはいけません(道路交通法第57条、東京都道路交通規則第10条)。子どもを抱っこしたまま自転車で転倒したり急ブレーキをかけた時、抱っこされているお子さんは頭や頸椎を損傷する可能性が高く、とても危険です。大切なお子さんの命を守るために、ルールを守りましょう。

【交通事故例】30代女性が抱っこひもを使って1歳4か月の子どもを抱っこして電動アシスト自転車に乗ってはいけません(道路規則第10条)。子どもを抱っこしたまま自転車で転倒したり急ブレーキをかけた時、抱っこされているお子さんは頭や頸椎を損傷する可能性が高く、とても危険です。大切なお子さんの命を守るために、ルールを守りましょう。

【交通事故例】電動アシスト付自転車がバス停でバスを待っていた方に衝突し、重傷を負わせて加害者となる交通事故が発生。



※16歳以上の運転者が幼児2人を乗せる場合は「幼児2人同乗用自転車」を使わなければいけません。

# 一年生になったら

## 「まねびとまなび」

### あらためて語る遊びの大切さ

今回は「人がまなぶ」という営みの原点を考えてみましょう。

「まねび」とは「まなぶ(学ぶ)」の語源は「まねる(真似る)」だと言われます。職人が達人の技を見て真似を繰り返して身につけていくように、子どもたちも大人の言動をまねて、大切なことを学んでいきます。

例えば、敬語。

ある親御さんは、保育園の先生から息子(5歳)のことについて、「〇〇君はみんなの前に出てお話しする時に、丁寧な言葉が使えますね」と褒められたそうです。息子さん「おやつを作ってください。給食室の〇〇さんが」とお話ししたらしいです。

これはたぶん親がふだん話す言葉をまねたのでしよう。5歳でも場に合った敬語(丁寧語)が使えるという実例です。幼児から学童期にかけて子どもは爆発的に言葉を覚えます。周りの大人が日常どんな場面でもどういう言葉を使っているか、見て聞いて学んでいます。私達大人は次世代に良い日本語を伝えていきたいものですね。

次は、「雨降りの日に水たまりをじっと見ていた〇〇ちゃん」のエピソードです。

「〇〇ちゃん(6歳)は雨の日、水のおもてにきれいな輪が次々に広がっているのに気づきました。何だろう？雨が落ちるとできるのかな。近くにあってた小石を水面に落としてみました。できました！輪が静かに広がり、重なり合って消えたりする。不思議だなあ！」

このとき夢中で雨のしずくから生まれる波紋で遊んでいた〇〇ちゃんは、中学生になって理科で「音波」を学んだ時に「あつあれと似てる！」と気づき、体験と知識が自分のなかでつながる瞬間の喜びを感じたそうです。小さい時の何気ない遊びのなかに隠れていた科学の芽。水たまりにしゃがんでいた自分を、せき立てずに見守ってくれた親への感謝を〇〇さんは述べていました。

幼いころの遊びのなかには、人や物事に関する真理が含まれていて、私達は知らず知らずそれを体験として学んでいるのでしよう。五感を通じた体験(遊び)の重要性がわかりますね。

☎(3647)9676  
FAX(3647)9274

地域教育課社会教育担当